私のデザート・アイランド・レコード
― レコード・コレクター気質 ―

随　筆

住　田　健　二*

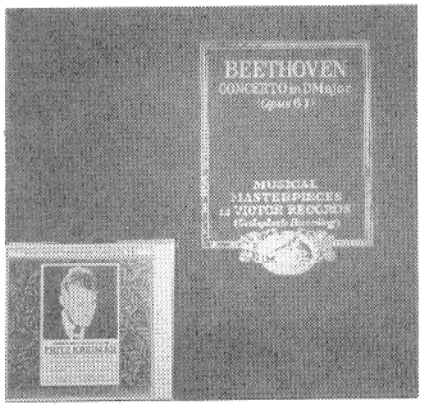
はじめに

多分，この表題を目にされた方は，デザート・アイランド・レコードとは一体何のことかね？と首をかしげられただろう．［無人島の記録］と訳して，はて住田なにがしは海外旅行によくでかけるとか聞いていたが，どこかの無人島に搭乗機が不時着した時の物語か……と早飲み込みされても困る

それで，多少スノブな感じだが，まずこの言葉の解説をしておきたい．世界最大のレコード（音盤）の消費国は勿論アメリカで，日本は第2位だそうだが，レコードを聞く趣味を，あるいはレコードそのものを一番大切にしている国はイギリスだ，とゆうのがレコード通の常識である．そのイギリスの音楽出版物等で，レコード（勿論，CD，テープを含めて）に対して使われる最大級の賛辞なのである．つまり，絶海の孤島に流されて，限られた数のレコードだけを聞くことが許されるとなれば，このレコードを持参したい位に惚れ込んだ盤をいう．

私のデザート，アイランド・レコード（I）

まず，私のデザート・アイランド・レコード紹介の一枚目は，少年時代からの愛聴盤からはじめたい．それは，F.クライスラーが弾いたベートーヴエンのヴアイオリン協奏曲の，古い方のL・ブレッヒ指揮の録音盤（1926年，ベルリン）[1]である．なにしろこのSP録音は電気吹込が始まった直後，私の生まれるより前であるから音は情けない位，それでも，この今世紀前半の最高の名手のもつ，スケールの大きさと独自の暖かい音色を味わうことはできる．手元にあるアメリカのマイナー・レベルのCDは，ダビング時にどういう手を使ったのか，LPの再刻版にたっぷり残っていた盤表面の周期的雑音やら一面毎の音程の変動まで，見事に除去してある．この曲は実演でも多くの名手の，それも全盛時代の演奏に接する機会があり，彼らのCDも時には聞くが，なぜかこの曲は最古に近いこの演奏で聞きたい．そして，この古めかしい録音の演奏を，CDからDATのテープに収録しておき，神経のとがりやすい海外旅行中のベッドで時々聞いている．



私のデザート，アイランド・レコード（II）

大好きでよく聞く曲，しかも無視できない名演奏のレコードが沢山あって，選択に困るのはモーツアルトのピアノ協奏曲で，9番と20番以降なら毎日でも聞きたい．そのなかでも，特にとなれば第20番ニ短調である．1枚きりなら，1960年代初頭の録音で，当時最盛期にあったR・ゼルキンのピアノとG・セル指揮クリーヴランド管弦楽団の録音[2]をとる．このLP時代の演奏は，実にバランスのとれた第1楽章での古典的格調，セルの棒ならではの第2楽章の深い情緒，そして一転してフィナーレでの激しさ

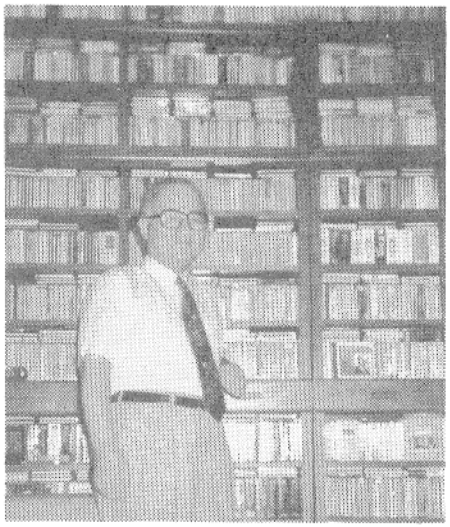
*Kenji SUMITA
1930年8月31日生
1953年大阪大学理学部物理学科卒業，
現在，大阪大学工学部教授（原子力），
工学博士，日本原子力学会副会長，
中性子工学，原子炉工学
TEL 06－831－0591

と，そこには必要なものが，まさしく必要なだけ表現されている．曲も演奏も共にまさに最高のモーツアルトがこれだと断言してよい．ただしこのLPはCD化されても，あまり音が改善されず，なにか1枚ベールをかぶった感じできこえる．

そこで，より激しく，より輝かしい演奏に触れたいときは，私と同世代人のF・グルダのピアノにC・アッバード指揮ウィン・フィルの組合わせを聴くことにしている[3]．これは迫力もあり，録音も悪くないから万人向きだと思うが，すこしまえのめりで，おしゃべりな感じだ．

もっと違った感じでなら，私は若い2人のモーツアルト弾き，A・シフとM・内田の最新録音CDを聴く．シフのは，彼の音楽的指導者ともいえる．S・ヴェーグ指揮のカメラータ・アカデミカ（サルツブルグ）との共演[4]だが，このヴェーグ門下生達によるスクール・オケの独奏者にはO・ニコレやH・ホリガーの管が入っている．たまたま録音前後の実演をウインで聞く機会に恵まれた私は，その他にヴイオラのパートにG・クレーメルやシフ夫人の塩川悠子の姿をみて驚いた．この名手揃いの顔触れを見て一層の期待感を込め，気負いこんだ私は，オケが奏ではじめたふくよかなメッツア・ヴォーチェの冒頭の音に更に面食らった．この曲での老ヴェーグの慈愛に満ちた音楽作りには本当にまいる．そして，シフの美しいピアノの音色もよくその線にそっている．一方の内田は日本人らしい清潔さと繊細さがあり，しかもよく考え抜かれた演奏で，テートのすっきりした指揮とは，とてもよく合っている[5]．ただ聞いた後に，充足感より，緊張しすぎた疲れが残る．持ち歩くならシフのにしたい．

この他，モーツアルトのピアノ協奏曲には，昨年の没後200年を迎えて．すぐれた最新録音がどんどん出版されている．上記のシフと内田はすでに全曲録音を完成しているそうだ．過去に全曲録音した人達も再録音に踏み切っているが，第21と第27のM・ペライヤ指揮，独奏[6]とかD・バレンボイム指揮，独奏とベルリン・フィルでの第20番から第27番までの全曲4枚[7]と，私の大好きな第9番に第17番の入った1枚[8]などは大変な名演奏で，録音も全くすばらしい．おまけ後の2人のは一部LDとしても発売されている．おそらくこれからの私の愛聴盤は，次第にこうした現役・若手の最新録音へ移ってゆくことだろう．



私のデザート，アイランド・レコード（III）

優れたスタフやキャストでのモーツアルトのオペラ上演を聴きに行く位楽しいことはない．昨年は没後200年を記念して，世界各地で多数の上演があり，海外出張時に随分もうけものをしたが，本場から遙か離れた日本に居ても，衛星放送やLD,CDだけでなく，その仕入れによる日本訪問もあり，今年にもまだ余波がつづいている．おかげで，この1～2年に，「イドメネオ」「後宮よりの逃走」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴアンニ」「コシ・ファン・トッテ」「魔笛」「皇帝テストの慈悲」を全部生の舞台上演で復習し，特に有名な5曲は実演，TV放映，LD,CDと何回も素晴らしい体験をした．

したがって，下手なレコードのオペラを聴く位なら，生意気な言い方だがスコアを膝の上において，それを目で追いながら，これまで見た舞台装置と演出を思い出し，空想の舞台でわが愛する名歌手達を歌わせたい．特にお気に入りの「フィガロ」と「コシ」なら，有名な故C・ボンネルの演出と装置は生で何回か見てよく記憶している．棒は勿論壮年期のK・ベームがいい．オケは当然小編成のウィン・フィルだ．特にダ・ポンテ台本の3曲にはあの艶のある官能的な音色がぴったりくる．

勿論，市販レコードにも素晴らしいものがある．曲を支配する面から，まず，ベームとウィ

ン・フィルの組合わせの演奏をとると，「フィガロ」にはポンネル演出の映画のLD[9]があり，スタジオで先録音された素晴らしい演奏が聞ける．曲の演奏順がオリジナルと違うとか絵付きが気になる時は，同じベームがベルリン・ドイツ・オペラと組んだDGG版CD[10]があり，ここでもH•プライのフィガロがきける．ベームの棒とその場に立ち会えた幸せの輝かしい追憶にこだわって，1963年の日生劇場のこけらおとし公演のライブ版[11]を聞く手もあるが，録音状態に相当の差があり，DGG版の方が楽しい．

“コシ”の方は，簡単で，ベーム指揮の数種の演奏から，もっとも完成度の高い歴史的名演と絶賛されているシュワルツコップ主演のスタジオ録音[12]を敬遠して，サルツブルグ祭ライブのヤノビッツ版[13]にしたい．理由は主役である．前者の歌はなるほど絶品だが，手がこみすぎて，何回もきいているとうまさが鼻につく．ライブ特有の小さな失敗や即興的な誇張のほうがまだしも我慢し易い．それにこの方はウィン・フィルの演奏に聞き惚れる喜びがある．

残念ながら，「ドン・ジョバンニ」には，うつつを抜かしうるだけのレコードがない．実演で聞いた主役ドン・ジョバンニには，C•シェビ，E•ヴェヒター，R•ライモンデーらのすばらしい思い出があるが，レコードとなると他の条件とからんでもの足りない．あえてとなれば一昨年と昨年，アン・デア・ウィン劇場で200年記念にアッバード指揮ウィン国立オペラがライモンデーのドンを中心に特別上演した時のキャストでの最新録音ならと思う．これは1990年の演奏がNHK衛星放送Bモードで放映されたので，私的に，DATに録音したテープをせっせと楽しませてもらっている．

私のデザート，アイランド・レコード（IV）

モーツアルトについで，私の好きな作曲家はシューベルトである．かなりの年齢になってから傾倒しはじめた前者と違って，後者の歌曲の世界は子供の頃から親しんできた．詩の深い意味も分からないままに，片言のドイツ語で歌詞まで覚えていて，ふっとくちずさむ歌は，彼とヴォルフのものが多い．

だから，ただ1曲だけとはゆかないで，代表として，歌曲集「冬の旅」全24曲あげよう．SP時代には，有名なG•ヒユッシュ独唱のものが，唯一無二の演奏のように敬愛されていた．今では，そのCD化版[14]や女声の数種までを含め30種以上のレコードで聞ける．その中で，一番よく聞いているのは，CD化されて聞き易くなったH•ホッターの最盛期の1954のモノラル録音[15]で，G•ムーア伴奏である．ワグナー物での神々や聖者を演じて，威厳と劇的な表現力において最高といわれた彼が，一方であの柔らい美しいソット・ヴオーチェのレガートをきかせえたことは驚異的だ．厳しさはあっても，慈味を失うことなく，淡々とした表現ながら，音楽の大きな流れに抱かれる慰めがある．ホッターには何種類もの録音があり，その最後は日本でのライブ録音で，その深さは一段の感銘をあたえる．しかし，録音された東京公演数日前の大阪公演での素晴らしさに驚嘆した私の記憶と比べると，声に相当な疲れが感じられる．

ホッターの不器用な「冬の旅」に物足らぬ日には，D•フィシャーデースカウの演奏が聴きたくなる．ドイツ歌曲の歌い手として，彼が，不世出の大歌手だいう世論には賛成だし，若いデビュー直後からの彼の歌曲のレコードの殆どを集めてきた私だが，手放しで聞き惚れうるものはとなると，意外に数が少ない．しかし，さすがに彼の「冬の旅」には深い感銘をうける．数多い公式録音の中から，声の衰えがそれほど気にならない程度だった1970年に3度目のG•ムーア伴奏で録音[16]したのが，一番バランスがよい．ただし，ホッターではあまり気にならなかった名手ムーアの伴奏が，フィシャーデースカウ相手だとより個性的な味がほしくなる．そのときは名ピアニストとの共演盤があり，J•デームス，バレイボイム，A•ブレンデルとのものがあり，私のエアー・チェック・ライブラリーにはM•ポリーニとの珍品もある．ただしデームスとの古いLP以外は，高音のフォルテに聴いている方がつらくなる瞬間がある．

所で，私にはもう一組の忘れがたい「冬の旅」がある．それは，日本の生んだ最高の歌曲歌手中山悌一と名伴奏者小林道夫のコンビで1960

年のNHK放送用録音から収録されたLP[17]である．これは，すでに絶版もので，まだCD化されていない幻の名盤に入る．現在の日本の音楽的水準は，戦後10年位までのレベルから，あらゆる分野で想像もつかなかった位の前進を示しており，クラシックの世界では，もう過去の全てが追い抜かれたといっていいような気がするのだが，まだ彼以後の日本の演奏家からはこれ以上の「冬の旅」は出ていない．

録音の関係でセピア調のモノクロ写真を見る感じはあるが，現在の世界的水準でも最上の「冬の旅」数点の一つに数えてよいものだ．この原稿を書くため，久しぶりで何人もの名歌手達の「冬の旅」をききくらべ，最後に中山を聴いてみたが，テノールの音色に近いハイ・バリトンのよく練れた美声と，さわやかなリリシズムは全く魅力を失なっていない．畳みこむような前半の高揚感から曲が進み，後半の短調の曲が続くあたりでの諦観への移行とその表現の深さに，感動を覚えないではおれなかった．小林の伴奏もまた素晴しい．私にとって一番共感できる「冬の旅」がここにある．

私のデザート，アイランド・レコード(V)

最後に，シューベルトの器楽曲を1曲あげたい．最後のピアノ・ソナタ(D.960)である．大作曲家は死の直前になると不思議に透明な，明るい感じの作品を残すと言われてが，このシューベルトは本当に悲しい．救いのない絶望感の世界にただよう観があり，沈潜してゆく響きにひたっていると，突如として突き上げてくる慟哭があり，やがて慰めと瞑想に変化する．昔からこの曲は名だたる大ピアニストが手がけており，S・リヒテルが日本デビュー第1夜に選んだものもこの曲であった．

レコードも沢山あるが，私はもう若手とはいえない第1線のM・J・ピレッシュのCDを愛聴している[18]．モーツアルト弾きとしてより名高い彼女だが，ハスキル，ケンプ，リヒテル，ブレンデル，ポリーニと完成した大ピアニスト達の所謂格調高い名演奏の並ぶ中で，彼女の示す世界はもっとナイーヴで，初期ロマン派らしい叙情がある．しかも，彼女のこの曲の演奏には

LD[19]があって，その演奏を見ながら聴き入っていると，次々と彼女の音楽に沸き上がってくるものがその顔の表情にも溢れ出ていて，2重に陶酔的な気分になる．彼女のモーツアルトのソナタ全曲録音はあまりにも有名で，特に最近完成した2回目の全曲録音[20]は，本当に魅惑的で手元から手離せないが，彼女のシューベルトもまた，他にえ難い味わいがある．

参考レコード番号 (特記しない限り現在のカタログにある日本プレスCD版)

1) Music and Arts Programs of America CD-290. 日本版はTo. TOCE-7830.
2) Sony. SRCR-8465.
3) DGG. FG28-G22006.
4) London, POCL-1140.
5) Phi. PHCP-1120.
6) Sony. SRCR-8578.
7) Teldek. WP-WPCC 4291～4.
8) Teldek. WP-WPCC 4871.
9) DGG(LD) POLG 1050～1051.
10) DGG. POCG-2188～90.
11) Canyon Classics 00059.
12) To. CE30-5270～72.
13) DGG. POCG 2214～5.
14) To. TOCE-7830.
15) To. CE-5535.
16) DGG. POCG-1133.
17) Vic. (LP) 中山梯一全集SJX 9512～7.(絶版)
18) Erato. BV-R32 E 1032(絶版).
19) Nippon Phono. (LD) PHLK-7001.
20) DGG. POCG-1480～1485.